

ちば高P連だより

第79号

千葉県高等学校
PTA連合会事務局
☎043(255)0687

会長就任挨拶

県高P連会長 花 島 和 宏
(千葉県立松戸六実高等学校PTA副会長)



平成三十年度の千葉県高等学校PTA連合会の会長を仰せつかりました、千葉県立松戸六実高等学校所属の花島和宏と申します。宜しくお願い申し上げます。

平成三十年度の千葉県高等学校PTA連合会の活動にご理解ご協力賜わり、深く感謝申し上げます。そして、各単位PTAの活動により青少年健全育成推進に多大なるご協力をいただいていることに、心より敬意を表します。

高等学校教育はこれまでの義務教育課程とは変わり、同様の学力の生徒が集い切磋琢磨できる環境になるところに深い意味があると私は考えております。その中で、専門性、進学、就職等にそれぞれの意識が大きく変化する年代であるため、生徒自身のモチベーショ

ンの向上や、それを見守り、支援する保護者の在り方が重要だと考えております。毎年開催しております各地区での研究会集会において、近隣の学校の素晴らしい活動内容を共有していただき、また研修会では講師の先生の講演を聴き、親と子の関わり方、現代の思春期の子どもの考え方など、皆様にとって学び多きものとなる機会の提供ができればと考えております。

そして、大学進学や就職をこれから迎える子ども達に保護者としてどう関わっていくかがとても重要になると考えます。少子化の時代と多少の経済回復の兆しが見えている現在では現在の三十歳代の人たちの就職氷河期と比べ、非常に良い傾向にシフトしている状況にあります。かつては、何十社も就職試験を受けても内定を取るのが困難な時代と違い、数社から内定を取れる時代になってきております。その中でも医療系や、技術系は在学中に資格を取得すれば、就職内定率は格段に上がります。また、公務員採用試験においても受験者数は増加しているが、団塊の世代層が再任用職員の退職に伴

い、職員の採用枠も増加傾向にある新卒者の採用が増加しているともいわれております。大学や専門学校に入学してからでなく、現時点で自分自身が何をしたいのか、目標を明確にしてあげるサポートを保護者の視点からアドバイスをし、その目標に向かう努力をすることで大人への階段を一歩進み事に繋がると思います。

各地区での研究会集会や県高P連の研修会にご参加いただき、より一層の実り多き一年にして頂ければと存じます。出席、参加すること必ず学びはありますと私は確信しております。人生いくつになっても勉強であり、一生学びだと思っていいただき積極的にご参加くださいます様お願い申し上げます。

平成三十年度は平成最後の年となつてしまします。来年度は新年号でスタートすることとなり、少々寂しいところではございますが、最終年度として皆様の記憶に残る一年になればと考えております。今後とも本連合会への積極的なご参加、ご意見、ご協力を宜しくお願い申し上げます。



平成三十年度 総会報告

県高P連副会長 西 本 達 也
(千葉県立大網高等学校校長)

平成三十年度千葉県高等学校PTA連合会定期総会は、平成三十年六月六日(水)、千葉県教育会館大ホールにて開催されました。

まず、総会前に表彰状受賞者五名、感謝状受賞者一九名への贈呈式がありました。PTA活動に御尽力頂いた各受賞者の皆様であり、厚く御礼申し上げます。

総会は、県P連大谷前会長の挨拶から始まり、御来賓の皆様から祝辞や祝電披露がありました。御多用の中、御出席いただきました御来賓の皆様、ありがとうございます。

平成三十年度は、松戸六実高等学校の花島和宏会長のもと、役員一〇名・理事三名・事務局二名の新体制でスタート致しました。



記念講演は、さくら教育研究所所長小澤美代子様より、「思春期の子どもの理解」～親としてすべきこと、すべきでないこと～という演題でお話し頂きました。印象に残っている言葉は「思春期は、手出し口出しはしないが目は離さない」という言葉でした。その言葉聞き、省みると「手出し口出しはするが目は離す」という全く逆の事ばかりしているなあと目から鱗の大変になる素晴らしい講演でした。小澤様、ありがとうございました。

最後に、花島会長のもと役員・理事・事務局が一丸となりチームワーク良く頑張りますので一年間、宜しくお願い致します。

平成30年度事業計画

年月日	行事名	会場
30年		
4月13日	会計監査、第4回役員会	千高P連事務局
5月11日	役員選考委員会、第5回役員会、新旧理事会	ブラザ菜の花
6月6日	第6回役員会、定期総会、講演会	千葉県教育会館
6月20日	第1回役員会・理事会	千高P連事務局
6月23日～24日	全国高等学校PTA連合会、定時総会	東京ガーデンパレス
7月5日	関東地区高等学校PTA連合会総会大会運営会議	宇都宮市日光市
7月6日～7日	第64回関東高P連栃木大会	
夏季休業間	各地区内夏季校外巡回指導	各地区内
8月19日	第68回全国高P連大会佐賀大会前日会議	ホテルニューオータニ佐賀
8月20日～21日	第68回全国高P連大会佐賀大会	佐賀県総合体育館他4会場
9月1日～12月20日	各地区別研究集会	各地区
10月13日	全国高等学校PTA連合会全国会長会・事務局長会	ホテルルビノ京都堀川
10月19日	第2回役員会・理事会	千高P連事務局
10月中旬	広報「県高P連だより」(第79号)発行	
10月23日～24日	第1回関東地区高P連役員会・委員会、会長・事務局長会議、会場視察	ホテルラフレさいたま
11月1日～7日	各地区内列車内一斉指導	各地区内
11月中旬	千葉県教育塔合祀慰霊祭	千葉県教育会館
11月14日	第54回千葉県高等学校PTA研究集会	千葉県教育会館
冬季休業間	各地区冬季校外巡回指導	各地区内
31年		
1月16日	平成30年度千葉県高等学校PTA連合会研修会	千葉県教育会館
1月下旬	第22回英語・日本語弁論大会(千高P連後援)	千葉市民会館
2月2日	全国高等学校PTA連合会全国会長・事務局長研修会	東京ガーデンパレス
2月15日	第2回関東地区高P連役員会・委員会	プリランテ武蔵野
2月下旬	第3回役員会・理事会	千高P事務局
2月下旬	広報「県高P連だより」(第80号)発行	
3月初旬	県教育庁ヒアリング	千葉県教育庁
4月中旬	会計監査、第4回役員会	千高P連事務局
5月10日	役員選考委員会、第5回役員会、新旧理事会	ブラザ菜の花
6月初旬	第6回役員会、定期総会、講演会	県教育会館

平成三十年度
役員・理事紹介

平成三十年度

役員・理事紹介

会長	花島 和宏／松戸六実P	筆頭理事	高木 宏己／市川東T
副会長	西本 達也／大網P	理事	大嶋 和男／市川昂T
	塗谷 和男／安房P	理事	洪谷 千春／松戸六実P
	松崎 達也／泉T	筆頭理事	竹野 芳弘／松戸六実T
会計	福岡由美子／千葉工業P	理事	志村くに子／市立松戸P
	代崎 勝／流山南T	理事	三好 浩美／流山南P
	中村 孝一／関宿T	理事	代崎 勝／流山南T
監事	徳永由美子／佐倉西P	筆頭理事	徳永由美子／佐倉西P
	大坪 邦夫／袖ヶ浦T	理事	石井 久雄／佐倉西T
	大谷 岩男／行徳P	理事	篠木 賢正／佐倉南T
顧問	廣部 泰紀／木更津T	筆頭理事	小原 裕行／銚子商業P
		理事	鈴木 智／銚子商業T
筆頭理事	福岡由美子／千葉工業P	理事	江波戸 亨／旭農業T
	西澤 康男／千葉工業T	筆頭理事	西本 達也／大網P
理事	田村みどり／市立千葉P	理事	岩崎 章／大網T
筆頭理事	栗島 寿恵／船橋二和P	理事	河野千津子／九十九里T
	三木 信夫／船橋二和T	筆頭理事	御園 茂／茂原樟陽P
理事	秋葉 美浩／船橋古和釜T	理事	小安 由男／茂原樟陽T
筆頭理事	倉持由紀枝／市川東P	理事	秋葉 初永／一宮商業P

退任挨拶

県高P連前会長
大谷 岩男
(千葉県立行徳高等学校PTA副会長)



平成二十九年
度、千葉県高P
連会長を務めさ
せていただきました。
任期中は会員の皆様の多大なる
支持、大谷岩男と申します。

ご理解・ご協力を賜りましたこと
を心より感謝申し上げます。就任
当初はこれからの一年務め上げら
れるか不安でしたが、役員の皆さ
ん、事務局の皆さんに支えられ任
期を全うすることができました。
この場をお借りして感謝を申し上
げたいと思います。ありがとうございました。
さまざま機会を捉えてはお話
しさせていただいておりますが、
世の中が大きく変化しようとして
います。働き方改革や、AI、I
OT等様々な要素があります。私
はこれらを総称して「平成(〇〇)
維新」と呼んでおります(〇〇は
新元号)。
明治維新のような変革が起きよ
うとしている真ただ中に居ると
考えております。今までの常識が
過去のものとなり新しい価値観が
生まれてきています。また、個々
人の生き方そのものにも変化が起
きています。人手不足を解消する
ためにロボットが新しい労働者の
仲間に加わることも起きようとし
ています。ロボットには置き換え
られない、人としての「心」やコ
ミュニケーション能力が求められ
ています。私たちPTAは高校生
に限らず子ども達が自分の力で生
きていくための知恵を身につけて
もらわなければなりません。
子ども達の応援団として引き続
き研修や交流を通して視野を広げ
ていきましょう。今後とも単P、
県P連の益々の発展のため会員の
皆様の絶え間ないお力添えを頂け
ますようお願い申し上げます。

関東
高P連大会
参加報告

栃木大会に参加して

県高P連副会長 塗谷和男
(千葉県立安房高等学校PTA副会長)

第六十四回関東高等学校PTA連合大会が、栃木県で七月六日・七日と二日間の日程で開催されました。今大会は「考え、行動につなげよう」変化の激しい社会に生きる子どもたちの社会的自立を支える者として「」がメインテーマです。私たち保護者は、当事者にはなれません。子ども達の頑張りによろしくサポートができるか考えるいい機会となりました。

初日は、餃子とジャズとカクテルで有名な宇都宮市のマロニエプラザで行われました。全体会前のアトラクションでは、栃木県立黒羽高等学校黒羽太鼓部と栃木県立宇都宮南高等学校吹奏楽部の演奏が披露されました。昼食の時間帯にも関わらず、集まった人達は次第に話し声も少なくなり、だんだん生徒達のパフォーマンスに引き込まれていく感じでした。その後、全体会も滞りなく終わり、次は記念講演です。「世界文化遺産日光東照宮の謎と真実」と題し、日光東照宮特別顧問の高藤晴俊氏にご講演いただきました。東照宮は、日光だけでなく静岡の久能山にもあります。久能山と日光を直線で結ぶとその間に富士山。江戸と日光を直線で結ぶとその先には北極星。不老不死や中心という意



学校行事にもPTAとして積極的に関わり、その他通学路清掃や校舎の清掃活動も行っています。「姉高でのPTA活動を通じ、絆を、コミュニケーションを深めていきませんか」というスローガンのもと、生き生きと活発にPTA活動を前向きに取り組んでいる姿がよく伝わってきました。私達は、他校の様子を知る機会がほとんどありません。このような大会に参加することで、視野を広げることができ、自校での新たな取り組みや工夫改善につながるのではないかと思います。いろいろと考えさせられ、学ぶことができた大会になりました。



近年にない大盛況だった懇親会

全国
高P連大会
参加報告

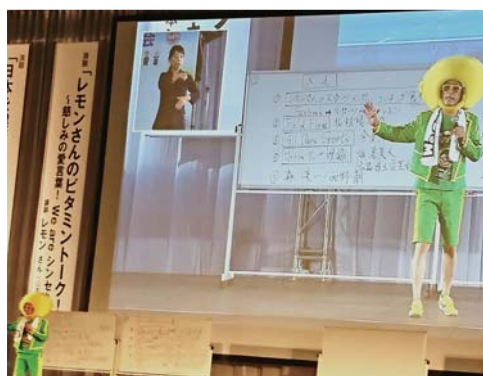
佐賀大会に参加して

県高P連会計 福岡 由美子
(千葉県立千葉工業高等学校PTA会長)

今年の全国高等学校PTA連合会佐賀大会のメインテーマは、日本赤十字創始者、佐野常民伯爵の博愛精神に由来した「広めよう高めよう 慈しむ心」です。「慈しむ」とは、「かわいがり大切にすること」といとおしむという言葉で、「慈」という漢字には、「草花が増える。心藏」心」という部分が含まれ、そこから「子どもを育ていっしょに」という意味が生まれたと考えられています。それでは、この大会で、私の心に残った講演を報告いたします。

滞りなく行われた開会式の後、レモンさん（山本シウさん）による基調講演「レモンさんのビタミントーク」を聞かせていただきました。自身の活動で感じる「あ

なたの命は、あなただけのものではない」とこと、どこかで「私のことをわかって」と叫んでいる人がいること、そして保護者には、信頼の五つ星（理解者、応援者、信者、承認者、指導者）であってほしいこと等を話されました。笑い、涙し、感動し、「おせっかいな男オバチャン」に心を奪われ、人権について改めて考えさせられました。



選挙権や若者同士が未来をつくるために何をすべきか考え、ニュースにも興味を持つようになったそうです。情報を集め議論したことに感謝しました。その熱い想いは、台詞にある「あなたの一票が必要なんだ。あなたが必要なんだ」の言葉と共に観ている私たちにしっかりと届き、上演終了後の鳴り止まない拍手で証明されました。その後に行われたパネルディスカッションでは、主催者との関わりと社会とのつながりについて、無関心であり続けることはできても、無関係ではいられないので、与えられた権利と義務を活用しようという締めくくられました。

平成三十年度表彰者

●PTA活動振興功労者表彰

・大木 幸夫(八千代高等学校)

・石井ますみ(君津青葉高等学校)

●全国高P連表彰

★個人

・大谷 岩男(行徳高等学校)

・片山 康(県立銚子高等学校)

・岡澤すみこ(茂原高等学校)

・杉本しのぶ(事務局)

★団体

・県立長狭高等学校

●関東地区高P連表彰

★個人

大谷 岩男(行徳高等学校)

村田 奈美(県立銚子高等学校)

勝見由美子(市原緑高等学校)

柿澤美由貴(柏の葉高等学校)

杉本しのぶ(事務局)

★団体

・県立柏の葉高等学校

・県立行徳高等学校

・県立君津青葉高等学校

・県立東金高等学校

・県立長狭高等学校



受賞者の声



文部科学大臣表彰を受けて

県高P連元会長 大木 幸夫
(千葉県立八千代高等学校)

この度、文部科学大臣表彰をいただきました。これは八年間の高校PTAの活動を評価くださったものだそうです！たった一枚の賞状ですが、この中には、たくさん笑顔、走り回っている姿が見えます。そして、たくさん感謝と感動、思い出を忘れないでおく為の宝箱みたいだと感じています。この賞状は皆さんのものだと思います。全てのPTA会員の方々のご協力があったこそ、全ての教職員の努力があったこそ、そして全ての高校生の健全な成長があったこそ！だと、本当に感謝、感謝です。



全国高P連表彰を受賞して

県高P連前副会長 片山 康
(千葉県立銚子高等学校)

そして、千葉県高等学校PTA連合会の会長として三年間務められた事、第六十六回全国高等学校PTA連合会大会千葉大会の実行委員長を任せていただいた事は、今後の自分の人生の中で大きな自信と誇りになりました。最後になりますが、今回の受賞にあたり、ご推薦くださいました方々に心から感謝申し上げます。

今回の佐賀県大会が県Pとして最後の仕事となりました。私にこの様な仕事と機会を与えてくださった県立銚子高校の先生方、私をフォローしてくださった県P連事務局の方々、共に仕事をしてくださった各校の先生、単Pの方々には感謝いたします。

私の様な不完全なアスペルガーでも、多くの方々の理解と支援のおかげで無事に仕事を終え受賞を受ける事ができました。本当にありがとうございます。

PTA活動を敬遠する人も多いと思うのですが、多くの会員の皆さんに、活動を通して出会いや感動、喜び、達成感といったものを私の様に共に味わっていただけたらと思います。

関東地区高P連表彰受賞にあたり

県高P連前会計 勝見由美子
(千葉県立市原緑高等学校)

関東地区高等学校PTA連合会栃木大会にて関東高P連表彰を頂きました。千葉県高P連の役員の皆様、事務局の皆様には大変お世話になり、心より御礼申し上げます。また本校の先生方、役員の皆様にはいつも支えていただき本当に感謝しております。

三年間のPTA活動の中、最後のこの一年間は、不安と期待で始まりましたが、県Pの様々な活動の一端に関わることができ、多くの出会いと貴重な経験をさせていただきました。最後に千葉県高等学校PTA連合会の益々のご発展を心より祈念申し上げます。

千葉県高P連表彰を受けて

県高P連前理事 藤代 晴美
(千葉県立行徳高等学校)

平成二十九年度千葉県代表理事校PTA会長として表彰状をいただきました。有り難うございました。

当初は広報委員の一理事で、思いかけずPTA会長に就任することになった私ですが、校長先生、教頭先生、特に総務の先生が丁寧に導いてくださり、常に副会長と各委員長が惜しみ無い協力をしてくれたお蔭で成り立っていました。特に思い出深いのは昭和学院短期大学の伊藤記念ホールをお借り

広報誌広夢のお礼

第六十八回全国高等学校PTA連合会大会佐賀大会、第六十四回関東地区高等学校PTA連合会大会栃木大会において、単P広報誌の展示に際し、九十六校のPTAから応募がありました。

役員会等で審査した結果をご報告いたします。今後とも多数のご応募をお待ちしております。

全国大会掲示PTA

・県立幕張総合高等学校

・県立東葛飾高等学校

関東大会掲示PTA

・県立東金高等学校

・県立市原八幡高等学校

・市立稲毛高等学校



▲関東大会掲示のようす

魅力ある県立学校づくり大賞 教育長賞を受賞して

千葉県立館山総合高等学校長 石井浩己

本校は、平成二十二年に共に長い歴史と伝統を持つ安房水産高校と館山高校が統合して誕生した学校です。全日制に、工業・商業・海洋・家政の四つの専門学科を持ち、普通科の夜間定時制と高校卒業後二年を修業年限とする専攻科を併せ持つ「総合高校」です。

創立十年の節目の年に、「魅力ある県立学校づくり大賞」教育長賞をいただくことができた大変ありがたく存じます。

さて手前味噌にはなりますが、今回の選考で評価いただいた点について述べさせていただきます。エントリーシートは、「観光をテーマに館山再発見」館総宝船」を主題に作成しました。



内容は、本校が地域と連携して行っている様々な取組を「再発見」という視点で整理したものとなっています。たとえば家政科では、生徒が地域の食材を活用した商品開発を行い農林水産省等主催のコンテストにて全国準優勝をいただきました。また工業科の生徒が製作した風車は風力発電コンペでデザイン賞を受賞し、地域の課題に向き合うためにイノシシの箱罫製作にも取り組ましました。さらに商業科が行う開放講座は地元の方々からも好評をいただいております。今年度からは市教育委員会と連携した小中学生向けの講座を開始することになりました。そして外国航路に向かう大型実習船を有する海洋科では、海産物を活用した商品開発を行い、地元の産業まつりで販売するなど、地域と一丸となった取組を進めています。

本校では県教育委員会からの指定を受け、「観光」について体系的に学ぶプログラムの開発・実践を進めています。訪れる人々に地域の良さを知ってもらうためには、まず自分たちが課題を含めて地域を知る必要があるとの思いから、高齢化の進む地域での防災・減災活動等にも取り組んでいます。(二昨年には、この取組に文

部科学大臣賞をいただきました。) そんな積み重ねの上に、本校(家政科)は、今年度から三年、文部科学省からスーパー・プロフェッショナル・ハイスクールの指定をいただきました。「地域共創人材の育成」を大テーマとする研究・実践をスタートさせたところでありますが、ここにおいても研究機関である大学(敬愛大学・千葉敬愛短期

大学)に地元自治体(館山市)を加えた連携協定を結ばせていただいたところです。

本校の前身である安房水産高校も館山高校も、共に地域の願いに答えて誕生した学校です。今も本校を支える最大の財産となっている地域の熱情に感謝して「次の十年」に向けた歩みを進めたいと思います。

キャリア教育実践

だれでも、いつでも、どこでも学べる学校

千葉県立千葉大宮高等学校校長 生田裕人

県内で唯一の公立通信制高校である本校は、単位制による通信制の課程で「だれでも、いつでも、どこでも学べる学校」として千名を超える在籍生徒を擁しています。入学年度ごとに組み分けされた生徒は、開設している科目から必要な講座を選択し、レポートの作成とスクーリングの出席、試験の合格を経て、基本的に四年以内に卒業します。

卒業後、社会へ出て自立し充実した人生を歩めるよう、本校でもキャリア教育は大切なプログラムとして取り組まれています。進路指導部では、進学先・就職先に関する情報を整理しつつ生徒の希望とのマッチングを丁寧に模索しています。単純な行先の決定に終わらない、息の長い人生設計に付き合うことは、数字には表れにくい

ものの本校の進路相談の特徴と思われる。また、キャリア教育において生徒の「やる気」は重要な鍵となります。本校では、五月の進路説明会を皮切りに就職希望者説明会や進学相談会など、毎月のように説明会を開き、進路について考え続ける姿勢を求め続けたい。しかし通信制の生徒は年間を通じてスクーリングと試験等の日の合計二十回前後しか登校するタイミングがありません。そのわずかな機会を活用して行われる本校のキャリア教育は、職員の「一期一会」の強い意識に支えられ暖かい思いやりをもって行われている。そのような中本校独自の試みとして、数年前から、社会的・職業的自立に向けた教育の充実を図ることを目的に「マルチチャレンジサポートプログラム」を実施し

ています。これは、労働安全衛生管理協会に委託する形でフォークリフトや高所作業車の運転講習を行い、資格取得を実現するものです。今年度は小型車両系建設機械運転特別教育講習としてパワーショベルを扱いました。二日間の集中プログラムで、二十名の希望者が挑戦し、一日目の講義を朝から夕方まで聴講、二日目の実技講習では実際に機械を操作して技術を習得しました。最後には試験が課され、受講者全員が資格取得に成功しました。仕事の選択の幅が広がることはもとより、社会に出て役立つスキルを持つ強みからくる自信や、働くことへの姿勢や心構えを高めるうえでも、手ごたえを感じられる意義深いプログラムだと思います。ジャンルは限られますが、今後も進路を開拓するきっかけになる取り組みを続けていきたいと考えています。



学校における働き方改革

千葉県教育委員会

現在、我が国において、働き方改革が大きな課題となっており、民間企業においても、様々な取組を行っているところである。学校においても、教員は学習指導や学級経営だけでなく、生徒指導や部活動指導等、業務は多岐に渡り、長時間勤務が大きな課題となっている。

特に、中学校では、いわゆる過労死ラインを上回る1週間当たりの在校時間が60時間を超えている教職員が約6割5分にもほり、その多くが部活動の指導に時間を費やしている。しかしながら、学校における運動部活動は、学校教育の一環として行われ、生徒の体力や技能の向上を図る目的以外にも、責任感や連帯感の涵養に資するなど教育的意義は大変大きく、保護者からも期待されてきた。これは、文化、科学等部活動も同様である。

このような中、平成30年3月にスポーツ庁が、生徒にとつて望ましいスポーツ環境を構築するといった観点から、運動部活動のガイドラインを策定し、1日の活動時間は、長くとも平日2時間程度、休業日3時間程度とし、できるだけ短時間に、合理的でかつ効率的・効果的な活動を行うことや、休養日は、学期中は平日1日、休業日1日の週当たり2日以上設けるという基準等を示した。千葉県教育委員会でも、これに則り、本年6月に県のガイドラインを改訂し、各学校における方針の策定を求めたところである。

今後、各学校がこれらの基準に沿って適切な部活動を行うことにより、成長期にある生徒がバランスのとれた生活を送ることができるようになり、併せて、教員が児童生徒と向き合うための時間を確保しやすくなり、効果的な教育活動が行われることが期待できる。これが、ひいては児童生徒の豊かな学校生活の実現に繋がることから、保護者の皆様においても、これらの趣旨を御理解いただきたい。

高校生総合補償制度について

高校生は、中学時代とは異なり、社会への関心や大人への意識が高まり、保護者の期待度が膨らむ時期です。一方で、通学範囲の変化をはじめ、交友関係・行動範囲の拡大・多様化から、日常生活にかかるケガ・賠償に対するリスクは一層増してきます。また、昨今マスメディアにて大きく取り上げられるように、自転車事故による不慮のケガや高額な賠償金を請求されるケースが増えています。千葉県では、このような社会情勢と県内で自転車利用者が加害者となる死亡事故も発生した経緯を踏まえ、歩行者、自転車及び自動車等が共に安全に通行し、県民が安心して暮らすことができる地域社会を実現させることを目的に、平成29年4月に「千葉県自転車安全で適正な利用の促進に関する条例」を施行しました。特に、「自転車利用者等は、自転車損害賠償保険等の加入確認及び保険加入に努める」との保険加入に関する努力義務を定めております。

私ども千葉県高等学校PTA連合会は、保護者の皆さまのご心配や万一の事故の際のご負担を少しでも解消するために自転車保険を盛り込んだ「高校生補償制度」を独自に組成し、ご案内させていただいております。この機会に改めて保険の加入状況についてご確認いただきますようお願い申し上げます。

1. 自転車の事故についての実態

交通事故の発生件数は、年々減少しています。しかし、発生件数に占める自転車事故の割合は、10年にわたり約20%という高水準で推移しています。

また自転車乗用中の死傷者数は、平成28年では90,055人と交通事故全体の死傷者数の14.5%の割合を占めています。

2. 相手方への高額の賠償判決

表1は判決文で加害者が支払いを命じられた金額です。

3. 「高校生総合補償制度」の概要

- 1年365日・24時間、国内外、登下校を含む学校生活全般、日々の私生活の中で生じる自身のケガ・病気や相手方への賠償も含む補償をご提供することが可能です。(注)
- 賠償責任事故に関する示談交渉も保険会社が行い、育英費用

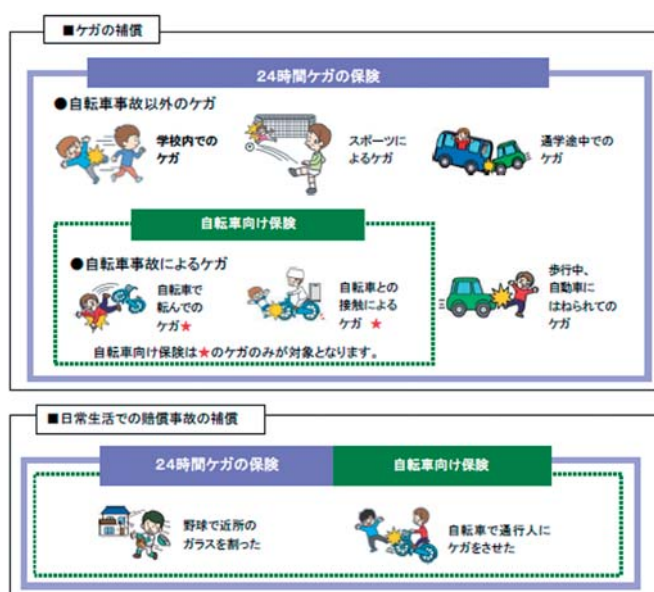
も補償します。(注)

- 三井住友海上火災保険㈱、東京海上日動火災保険㈱、損害保険ジャパン日本興亜㈱、A I G損害保険㈱の4社が取扱っております。

【表1】

賠償額	判 決	事故の概要
9,266万円	2008年6月 東京地裁判決	高校生が、自転車横断帯のかかり手前の歩道から車道を斜めに横断したところ、対向車線を自転車で直進してきた男性会社員と衝突。男性会社員に重大な障害（言語機能の喪失等）が残った。
9,521万円	2013年7月 神戸地裁判決	小学5年男子児童が、自転車に乗って坂道を時速20～30キロで下った際、散歩途中の女性に衝突。女性には頭蓋骨骨折等の傷害を負い、意識が戻らない状態となった。

【一般的な補償内容】



(注)各保険会社・商品プランによって補償の有無が異なります。商品プランについては高P連HP (<http://www.chikoupren.jp/>) に掲載しております。詳しくは千葉県高等学校PTA連合会または各保険会社へお問い合わせください。